

# 交雑種去勢牛に実施した 尿管膿瘍摘出における 膀胱切除術

(株)益田大動物診療所

---

土屋萌、富岡晃輝、加藤圭介、山本哲也、  
原知也、足立全、岸本昌也、加藤大介



# 症例

生年月日:2018年9月14日(6ヶ月齢)

品種:交雑種

性別:去勢

## 症状

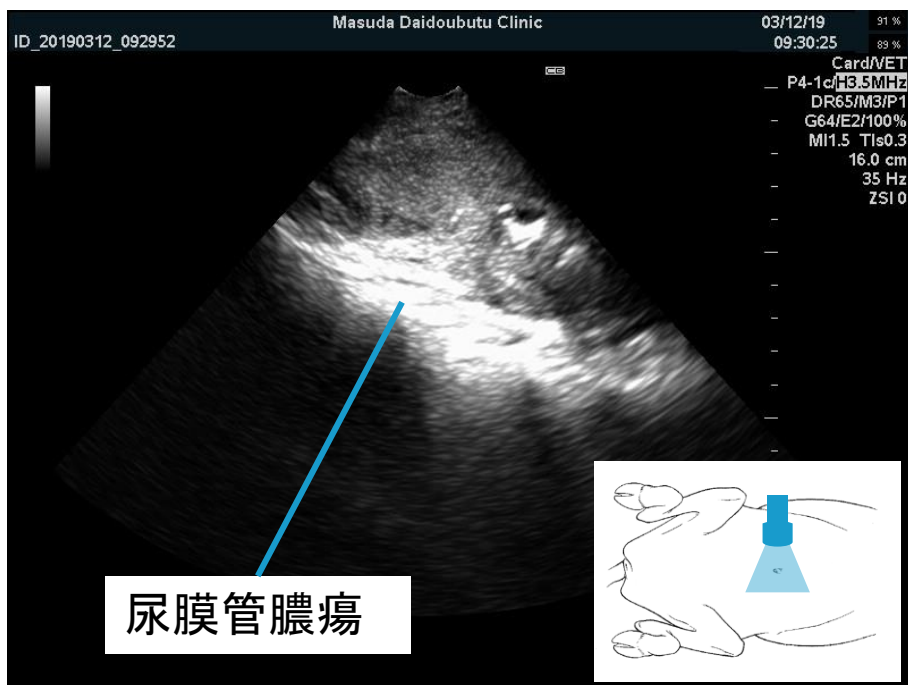
- 食欲不振
- 消瘦
- 脱水
- 体温:39.5℃
- 臍部:排膿あり  
ソフトボール大
- 陰毛に結石付着



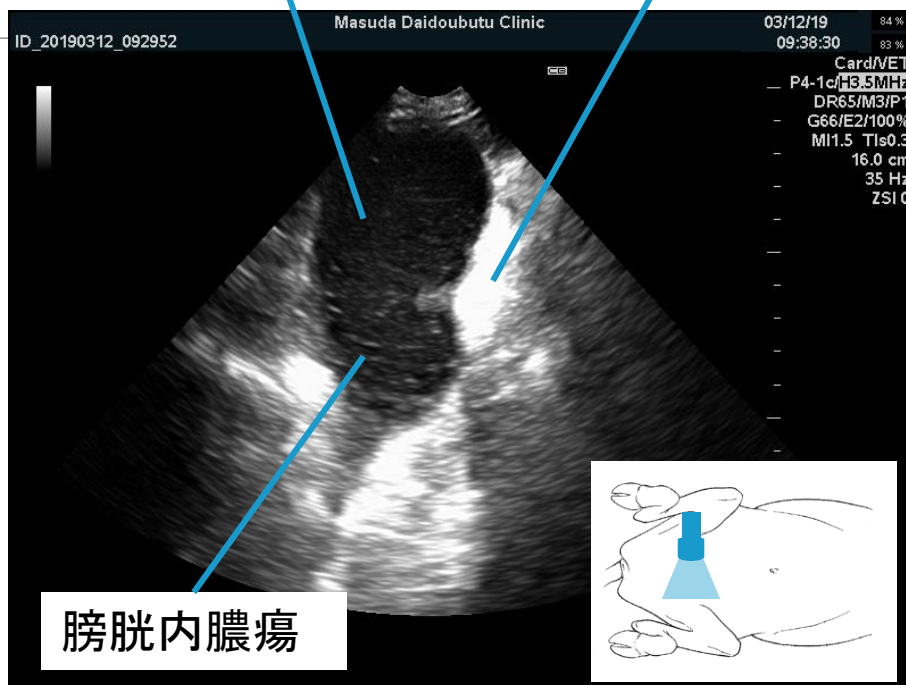
抗生剤にて治療するも反応が認められず超音波検査



# 超音波検査所見



尿膜管内の高エコー像



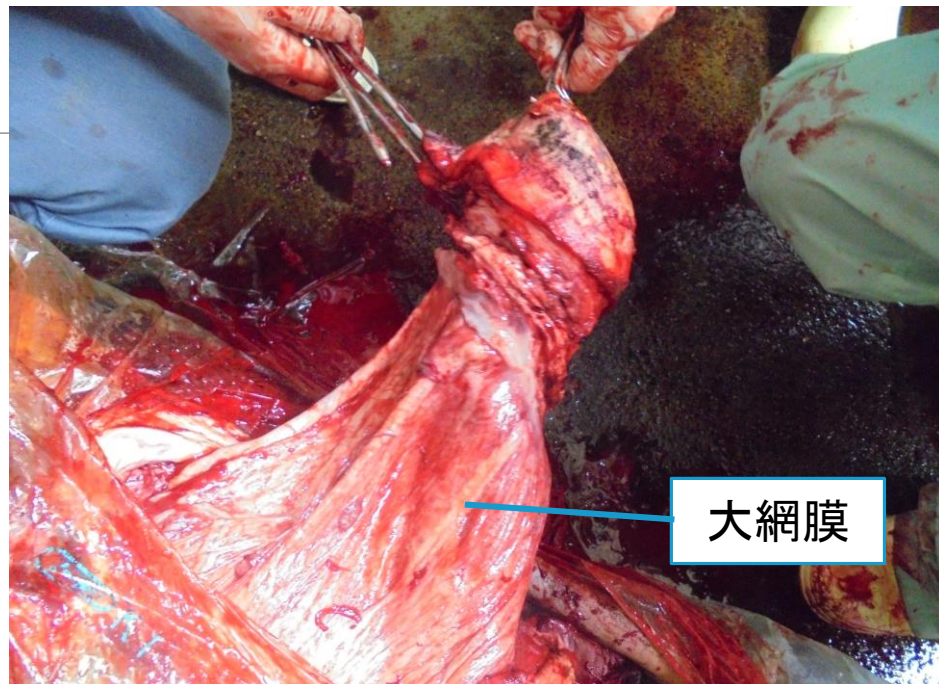
膀胱内の高エコーの浮遊物

# 手術①

術前投与: 塩酸キシラジン 3ml i.v.  
塩酸プロカイン 50ml s.c.



仰臥位に保定  
↓  
恥骨から胸骨まで剃毛  
↓  
ヨーチンにて消毒

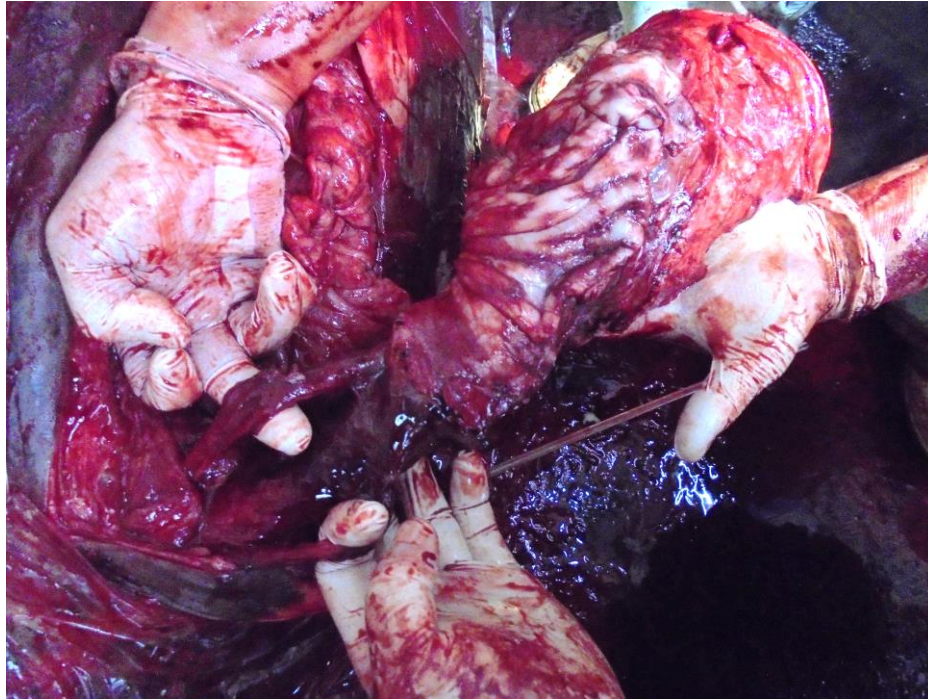


臍部皮膚を紡錘状切開  
↓  
臍部膿瘍と大網の癒着部を剥離  
↓  
傍正中を切開し、腹腔内探索

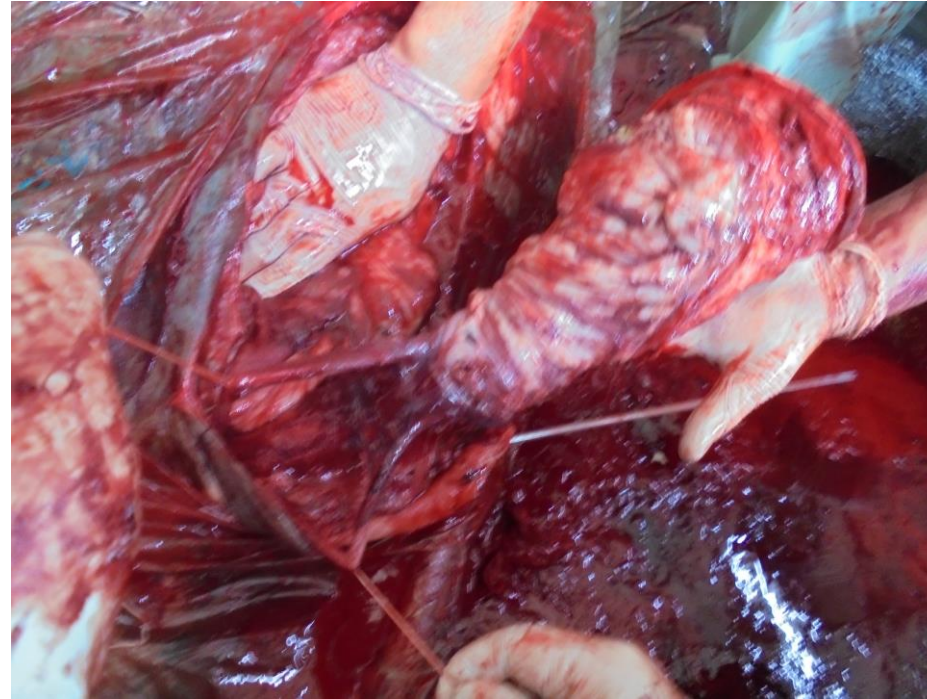




# 手術②



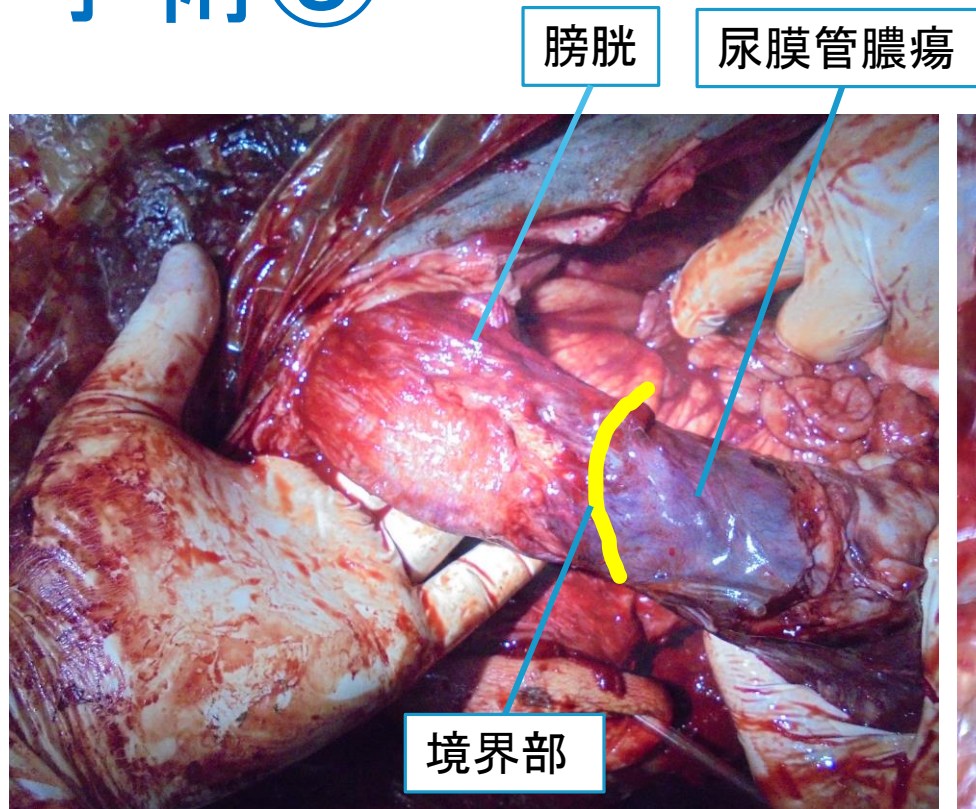
2本の肥厚した臍動脈を確認



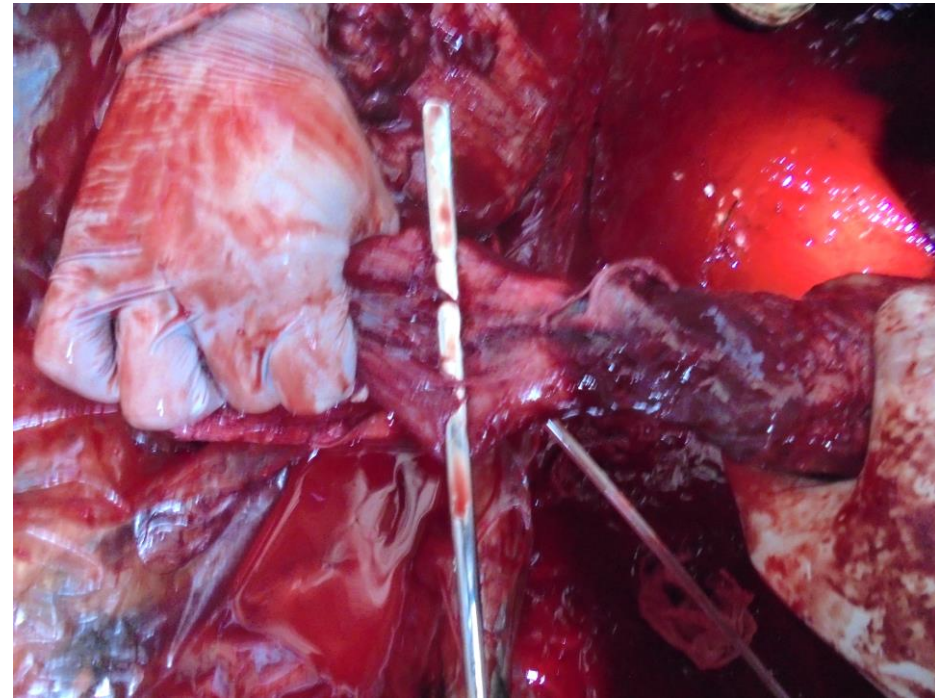
2本の臍動脈を結紮、離断



# 手術③

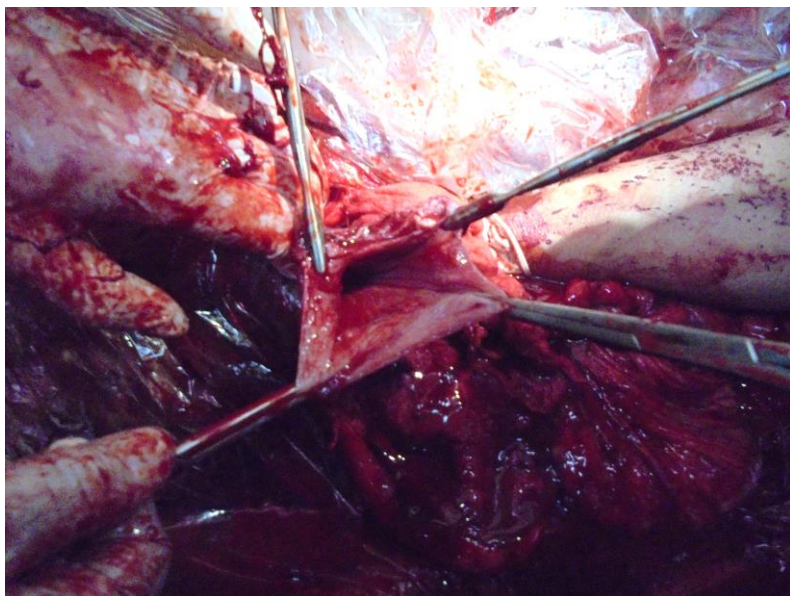


膵部から膀胱へ連続した尿膜管膿瘍

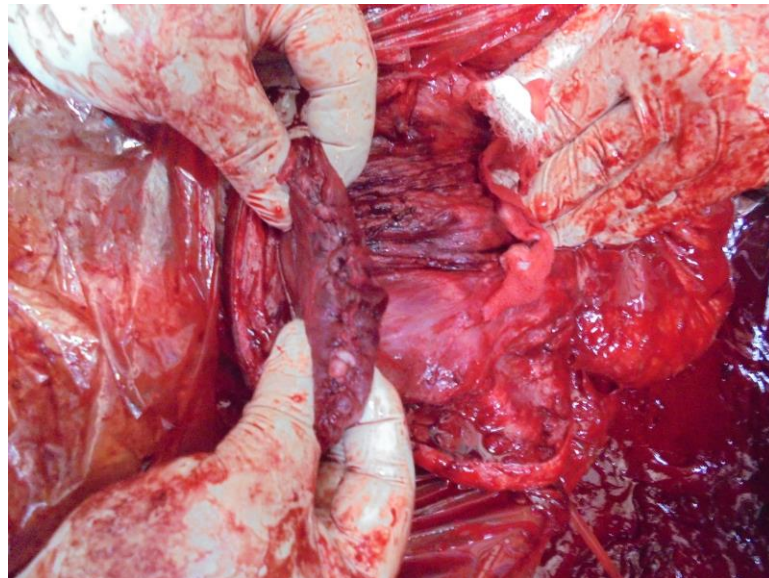


膿瘍化した膀胱を一部切除





膀胱一部切除後、膀胱の開口



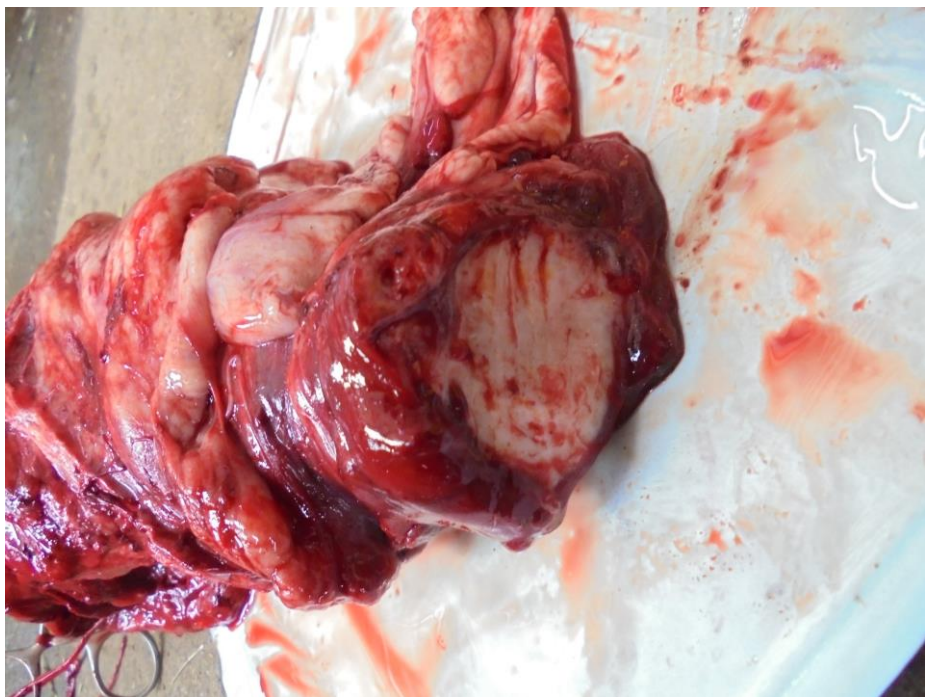
レンベルト縫合にて閉鎖



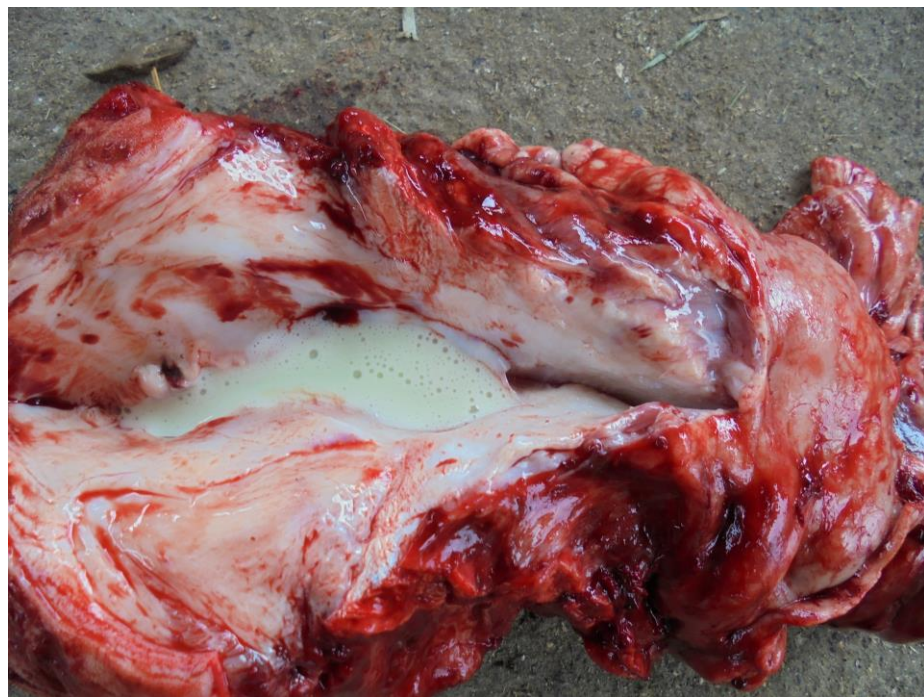
閉腹



# 尿膜管膿瘍



摘出した尿膜管膿瘍の断面  
(直径7cm)



尿膜管内に大量の膿が貯留

細菌検査結果: *Truperella pyogenes*





# 考察

本症例は腎泌尿器系疾患の再発もなく現在も飼育中。

術前の超音波検査により、感染がどこまで波及しているかを判断することができた。

膿瘍化した膀胱を一部切除することで、腎臓や全身への上行感染を防ぐことができた。



感染が膀胱まで波及している場合、  
膀胱の一部切除は有効

